

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201263		
法人名	北商 株式会社		
事業所名	グループホーム ライフケア北倶楽部		
所在地	札幌市北区北28条西12丁目3-13		
自己評価作成日	平成23年4月27日	評価結果市町村受理日	平成23年6月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>年4回3施設合同(会社)で、オリエンテーションをしている。スタッフの異動があっても利用者さん達は懐かしそうにスタッフに笑顔を見せてくれる。</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201263&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年5月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>バス通りに面した、商店街の住宅地に立地している「ライフケア北倶楽部」は買い物などに便利で生活環境に恵まれている。2階建の建物は寿司店を改造したもので、和風の造りを活かし落ち着いた雰囲気である。利用者は町内会の行事に参加したり、小学校の運動会に出かけるなど地域との交流を楽しんでいる。ボランティアの訪問や近隣から植木鉢やケーキなどの差し入れもあるなど、身近な交流も得られている。月2回のミーティングで業務の改善やケアについて常に意見を交換し、利用者の個別の意向を職員間で検討を重ねている。設備の検討が必要な時は本部とも相談し、安全性を高めるために階段の幅を調整し手すりを付け加えるなどの改修を行い、家族や利用者の意向に沿って柔軟に対応している。職員は毎月の内部研修でテーマごとに学び、プライバシーに配慮した身体拘束をしないケアに取り組み、個別ケアを重視したサービスを提供している。ボランティアの協力も得ながら、利用者は買い物、カラオケ、喫茶、ドライブなどに出かけ、暖かい時期には毎日のように、交代で数人ずつ散歩や買い物に出かけている。</p>

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念とは別に、北倶楽部の理念を作り、できる限り実践している。	法人事業所共通の理念に沿って目標を作成し、事務所や居間に掲示している。ミーティング時に具体的な事例を取り上げて理念に触れている。職員はケアを行う中で理念や目標を意識して対応を振り返っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のイベントに参加させていただき交流させていただいている。	町内会の行事や活動に参加し、小学校の運動会に出かけている。傾聴ボランティアの訪問があり、ボランティアによる子供マジックの催しも検討している。事業所行事のバーベキューには住民に声をかけているが参加者は少ない。今後は、積極的に地域の方を招待し地域ぐるみの交流を広げる機会と考えている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議やイベントなどで、認知症の理解など話している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で話した事を、ミーティングなどで話し合い、サービスの向上を目指している。	運営推進会議は家族の代表、地域包括支援センター職員、民生委員、ボランティアの参加で2ヶ月ごとに開催しているが、町内会役員は参加されていない。外部評価の結果や行事報告の他に災害対策についても討議し、議事録は全家族に送付している。	現在、町内会役員の交代時期なので、再度運営推進会議の趣旨を説明し、協力と参加への働きかけを行っていくことを期待したい。また、毎月の広報などを通じて全家族宛に開催日のお知らせや開催案内を送付することで、意見の収集や多くの家族が参加できるような工夫にも期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者会議等参加したり、本部の担当者が市町村担当者と綿密に連絡をとる等、連携に努めている。	本部の担当者が書類関係やスプリンクラー取り付けなどについて市の各担当者に相談し、情報を得ている。ミーティングで必要な情報を取り上げサービスに活かしている。生活保護担当者の訪問時には情報を交換して解決に繋げている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員で話し合い、拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束のマニュアルを整備し、内部研修の中で具体的な行為を学び、また事例を取り上げ抑制に繋がる禁止語や決め付けた言葉遣いに注意している。玄関にセンサーを取り付け、外に出る気配がある時は、話題を変えたり、一緒に周囲を歩いて安全面に配慮しながら対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われない様、常に注意し防止に努めている。		

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ、成年後見人制度を使うまでいたっていない利用者ばかりですが、必要があれば活用出来る様、支援していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明した後、書面にて契約を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族訪問時、意見交換を行い反映させています。	来訪時や大きな行事に参加の機会に家族の意見を聞いている。家族の意向を本部にも伝え、最近では空気清浄機を設置している。出された意見などは日報の家族連絡欄に記録した後にパソコンに入力し、個人ごと、項目ごとに抽出できるようになっている。今後も些細な意見をも記録し、意向を把握してサービスに繋がりたいと考えている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフと意見や提案を話し合い、会社の方に報告している。	月2回のミーティングで業務の改善やケアについて常に意見を交換している。職員の提案を本部の管理者会議で検討し、安全性を高めるために階段の手すりを付け加えるなどの改修を行っている。職員は得意分野の役割をもって運営に参加している。必要に応じて本部担当者との個人面談もあり、職務調整やケアのスキルアップに反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の置かれている生活環境や、個々の能力をよく把握した上で、雇用条件を決め、また労働意欲を向上させるような職場環境を整備している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する機会を作り、研修参加する様にしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会に参加し、交流する様にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族より、本人の状況の聞き取り及び、本人の要望を十分に踏まえた上で、認知に関わるメンタルケアに重点を置いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、ご相談には出来る限り対応をさせて頂ける様に話し合いの場を設けています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要介護状態、本人の状態を踏まえた上で必要な支援を行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない部分はお手伝いし、可能と思われる部分はお願ひするという形で共有する事を心掛けています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフのケアでは補えない部分もあり、ご家族にも相談し一緒に関わって頂く様にしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	たまに知り合いの方も見えられるので、ゆっくりお話していただける様、支援させていただいている。	知人の来訪時にはお茶やおやつを出して居室で寛げるように配慮している。手紙を書くことを手伝ったり、電話を取り次いで関係が途切れないように支援している。以前の暮らしを把握して、畑の好きな方には野菜作りなどの機会を作っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係も十分に把握し、尚且つスムーズに皆がお互いに関わり合っていける様、その為の接点で有る事も踏まえて支援している。		

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、状況把握の為、関係者との面会の機会を持ち、相談等を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りの対応をさせて頂き、常にスタッフ全員、ミーティングにて対応している。	生活歴や趣味などを盛り込んだアセスメント書式を工夫し、介護計画の見直し時には新しい情報を追加して現状を把握している。温泉に入りたい個別の意向に沿って職員間で検討を重ね同行している。できるだけ利用者とは話を多くし、その中で意向を把握するように努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	園芸、買い物、外食、外出等、自由に利用者のニーズに対応したサービス提供している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動、会話等でその日の状態を把握し、協力支援に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー、スタッフ全員でモニタリング、意見等を出し、常に介護方針が共有できるように話し合っている。	介護計画は状態が安定している場合は、基本的には6ヶ月ごとの見直しとしている。計画作成者は職員に利用者の状態を聞き、介護記録を参考にして計画面を作成し、職員に修正や追加をしてもらっている。カンファレンスで評価を行い、家族や本人の意向を入れた介護計画書に同意を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員で情報交換し、実践している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望、ご家族の状況等を把握した上で、外出、外泊の調整をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して、生活、行動が出来るようまた、地域との繋がりを持つ為にボランティアの協力を呼び掛けている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科、内科等の提携医療機関が有り、定期往診や24時間対応を利用しての支援をしている。	協力医の定期往診の他に、他科受診の場合は家族の同行を基本としているが、事情に応じて必要な時は職員が同行している。受診結果は家族と連絡を取り合い、観察記録の個人ごとの医療情報に記録し内容を共有している。	

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは、小さな事も伝え、スタッフ同士で決めず看護師及び、担当医等へ相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関からの話を良く聞き、引き続き支援を行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人とご家族から希望を聞き、可能な限り支援している。	利用契約時に重度化や看取りに関する事業所の方針を文書で説明し、医療処置が常時続く場合は事業所での対応が難しいことを説明し同意を得ている。重度化やメンタルケアが必要な場合は、家族、病院と連携を取りながら対応している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受講している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上、様々な条件を想定し、訓練を行っている。	年2回の避難訓練のうち、1回は消防署の協力のもとに夜間想定訓練をしている他、前年度の3月にも自主訓練を行っている。運営推進会議を通して住民の参加を依頼しているが実現していない。地震をテーマに話し合い、備蓄品なども保管している。今年中にはスプリンクラーの設置を予定している。	地域との協力体制を作るためにも、避難訓練時に住民の役割を決めて参加してもらえよう、継続して働きかけることを期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の対応に気を付け、周りに気を使わない様、対応している。	呼びかけは「さん」付けを基本とし、気になる言葉遣いがあれば管理者がその場で直ぐ注意している。個人記録は所定の場所で安全に管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、本人の意思を尊重している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の要望に副えるよう心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの意向に従う様、心掛けている。		

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好き嫌いを把握し、希望に副えるよう工夫している。	ほぼ半数の利用者が身体能力に応じて食事の準備や後片付けを職員と一緒にやっている。食材会社の献立を採用しているが、利用者の意見や反応を見ながら内容を変更している。誕生日には利用者の好物や出前の生寿司を取って喜んでもらったり、毎月のようにファミリーレストランなどで外食レクを楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量など調整し、水分量もチェックを行い、不足の場合はお話をして飲んでいただいている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前、食後、声掛けで行い出来ない所は、スタッフが介助を行う。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで行える様、心掛けている。	「排泄記録」のデータをもとに時間を見計らってトイレ誘導をしているので、日中は殆どの利用者がトイレで排泄している。誘導の声かけは周囲に聞こえないように表現や声のトーンを工夫し、失禁の際はさり気なく居室やトイレに導いている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操や乳製品を利用する様、心掛けている。		
45	17	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別対応でなるべく、入って頂ける様、心掛けている。	利用者の希望を聞きながら曜日や時間を限定せず、各自が好きな時に入浴できるよう支援し、最低週2回以上は入浴してもらっている。入浴拒否の利用者には同性介助や時には足浴に切り替えるなど工夫している。入浴剤もいろいろな種類をそろえて楽しんでもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度や明るさを個別に調整を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ無い様に服薬支援を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の対応をする様に心掛け、気分転換を行える様にしている。		

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別対応に重点を置き、少人数でも日にちを分けて個人が楽しめる様、工夫している。	天候の良い季節には公園での散歩や近所のスーパーへの買い物など、毎日のように外出している。また、ボランティアの協力を得て喫茶店やカラオケに行ったり、同経営の小規模多機能のデイサービスに参加したりしている。外出行事も、花見や紅葉狩り、北大のイチョウ見学など盛り沢山である。冬場は外出の機会が少ないが、月に1度は大型店の買い物に行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特に本人の意思を尊重し、希望に応じて対処しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別に希望に副うようにしています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	置物、ソファの配置等、くつろぎやすい演出を考慮しています。ガーデニング等も取り入れています。	共用空間は全体が和風な造りで、トイレの数が多く浴室も広くて使いやすい。完全なバリアフリーではないが、最近も階段の手すりを増設したばかりで、使いやすくなるように工夫がなされている。居間や廊下には装飾品や写真が飾られ、温かく家庭的な空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1F、2Fそれぞれソファ、イス等でくつろげる空間を工夫し気の合った利用者同士が過ごせるサロンになっています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具及び寝具、ご家族の写真、仏壇等により、これまでの生活環境を維持出来る様、努めています。	室内には利用者の馴染みの家具が置かれ、壁には好みの飾り物や写真が飾られている。また、植物の好きな利用者は鉢植えを置くなど気持ち良く暮らせる工夫がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者によっては、家事などに生きがいを感じる方もあり、その方に出来る事を引き出していける様に努めています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ライフケア北倶楽部作成日：平成 23年 6月 16日市町村受理日：平成 23年 6月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	定期的な運営推進会議の開催は行われているが、参加メンバーである町内会役員がスケジュールの調整がつかず、なかなか出席いただけない。	運営推進会議の趣旨を説明し、協力と参加への働きかけを行っていく。施設だより等を通じて全家族に、開催案内を送付し意見の収集や多くの家族が参加できるよう工夫する。	町内会役員の改選時期であった為、新しい町内会長宅へ直接ご挨拶に伺いました。今後積極的に参加いただけるような感触を得ました。	1ヶ月
2	35	避難訓練時の地域住民の参加を、運営推進会議を通してお願いしているがなかなか参加まで至らない。	地域の方々には明確に、より具体的な協力内容をお願いし、可能な限りの地域との繋がりを確保する。	町内会から回覧板を利用した施設からの情報発信の提案をいただきましたので、今後定期的に利用させていただきます。	1ヶ月
3	10	家族からの意見や要望が気軽に伝えられるような仕組みが足りない。	利用者の生活暦等の情報収集や、ご本人ご家族からの些細なご意見等も逃さず記録し、ケアの向上を図る。	ご家族の訪問時の記録については詳しく日報に記録したり、施設だより送付時に、アンケートやご意見ご要望の用紙を同封する。	6ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。